

安保法 いまも思い交錯



記者会見に臨む寺田ともかさん(左)、奥田愛基さん(中央)、海老原陽奈さん=28日、東京・永田町、鬼室黎撮影

SEALDS

おかしいと言いつける

安全保障関連法が29日午前0時、施行された。「国の存立を全うする」「国民を守る切れない法制」。政府がかかげる法の意義に対し、「戦争放棄」をうたう憲法に反するとの声もある。憤り、不安、責務、貢献……。次代を担う若者たち、そして現場の自衛隊員らの間では様々な思いが交錯している。

▼1面参照

「なぜ安保法が必要なのか。どのように運用するのか。もう一度きちんと説明してほしい」
東京・永田町の参院議員会館であった記者会見で、奥田愛基さん(28)は明治学院大4年IIが求めた。安保法の施行が約10時間後に迫った28日午後2時すぎ。そばには、海老原陽奈さん(20)も同朋大2年II、寺田

自衛隊員らの声

東北地方の隊員	国際情勢などから法整備は当然。ただ国会の議論では犠牲者が出るなど一方の事態への対応があまりなかった
東日本の海自幹部	これまでは新たな事態が起きると、時限立法成立を待たなければ動けなかった。今後は色々な事態に即応できる
近畿地方の30代陸自隊員	「外国の戦争に参加することになったら」とよく考えるが、銃弾の飛び交う場にいる自分を想像するのは難しい
北海道の入隊予定者(25)	「危険な場所に行くのでは」と父は心配するが、自分はサバイバルゲームもしているの、それほど深刻に考えない
静岡県陸自隊員の妻(30代)	夫とは安保法についてあまり話さないが、今より危険が増すのが不安。できれば法を施行しないしてほしい
石川県の隊員の妻(38)	米国を助ける戦争に加わる可能性が高まるとなると、受け入れたくない。ただ受け入れなければという意見もわかる
九州の70代元海自隊員	もっこの春、防衛大学の卒業生のうち、任官辞退者が47人に上ったことが気になる

自衛隊員

新たな局面 ■ 少し不安

「活動範囲が広がり、貢獻できることが増える」。法施行を歓迎する中国地方の30代の海上自衛隊員は、アフリカ・ソマリア沖の海

上だった。奥田さんは首都圏、海老原さんは東海、寺田さんは関西、元山さんは琉球(沖縄)のグループの中心メンバー。「民主主義ってなんだ?」と街頭で声を上げ、その動きは法案の国会審議が進められた昨夏には大人も巻き込んだ「うねり」につながった。

「納得していないから、声を上げていく」と奥田さん。海老原さんは「自衛隊員が人を殺したり殺されたりするリスクがない社会が当たり前であってほしい」と言い、元山さんは「行動することで身近な人に訴えていきたい」と語った。

「私たちは活動を通じ、選挙や政治に関わる主体性を身につけてきました。今後の日本社会を築くうえで、強みになると思う」と力を込めた寺田さん。その視線は、18歳と19歳が選挙権を得る今夏の参院選に向けられていた。

会見後の夜、SEALDSのメンバーは国会前で「おかしい」と声を上げ、「おかしい」と声を上げた。大学院生の諏訪原健さん(29)が「私たちは社会を変えよう力を持っている。闘いはまだ続くから頑張ろう」と呼びかけた。

一方、北海道千歳市の30代の陸自隊員は政府の説明について「政府が『安全』であるかのようなことを言うのはおかしい。現場は当然危険。安全なら民間が行く。自衛官はみんなそう思っているんじゃないか」。近畿の陸自駐屯地に所属する20代の男性隊員は「現実味が湧かない。施行がよいことなのか悪いことなのか判断できない」と話す。

4月から自衛官への道を歩む若者たちも安保法と向き合うことになる。「自衛隊の任務と活動は新たな局面に向かい、関係各国と連携する必要性が高まります」。金沢市内のホ

テルの会場で2月末、橋本さん(22)の声を響いた。防衛大学校を卒業して幹部候補生学校に入る人、自衛官候補生として入隊する人。4月から自衛隊の組織に入る石川県出身の橋本さんら約90人の激励会だ。壇上に並んだ「自衛官の卵」たち。拍手を送る地元政財界の関係者ら。自衛隊幹部があいさつに立ち、防衛相の中谷元氏のビデオメッセージも流れたが、式典で安保法に触れたのは若者代表の橋本さんだけだった。人の役に立ちたい。親へ恩返ししたい。そう考えて自衛官を志望した中山愛理さん(19)は取材に「少しは不安です」と素直に話した。一方で、すぐに「国のために働けるならうれしい」と表情を引き締めた。三男の門出を見に来ていた母親(48)は「三男は祖父から『戦争に行くかもしれないぞ』と言われたが、意思は変わらなかった。現実のものとして考えていないのだから」と語った。

3/29 朝日